

⑱大内白鳥バイパス（東かがわ市松崎～土居間）1.4km開通

受賞機関 国土交通省 四国地方整備局 香川河川国道事務所

キーワード 維持管理費の縮減、コンクリート舗装、区画線の視認性の向上

全建賞審査委員会の評価ポイント

国道11号大内白鳥バイパスの建設。コンクリート舗装の採用に当たって、施工直後の視認性の問題に着目し、区画線に背景線を入れることで、視認性を向上している点や、その取組が全国的な共通課題に対する解決策の一つとなり得る創意工夫である点が評価された。

1. はじめに

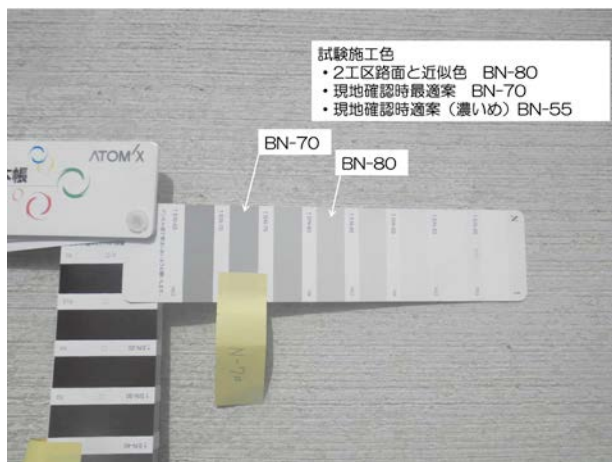
国道11号大内白鳥バイパスは、香川県東部に位置する東かがわ市の交通渋滞の緩和及び交通の安全確保を図るとともに、高松自動車道白鳥大内ICへのアクセスを図り、また香川・徳島間の地域連携を強化し、東かがわ市の新たなまちづくりの支援を目的とした延長9.2kmのバイパスである。このうち、東かがわ市松崎～土居間（L=1.4km）が令和3年12月18日に開通し、全長9.2kmのうち5.9kmが暫定2車線で開通している。

2. 事業の概要

国道11号大内白鳥バイパスでは、当初アスファルト舗装を計画していたが、維持管理費の縮減等を踏まえ、耐久性に優れ、長寿命であるコンクリート舗装を採用した。しかしながら、コンクリート舗装の竣工時には舗装面が白いため、区画線（車道中央線）の視認性が悪く、安全面に対して課題があった。

区画線に背景線を入れ、明暗の差をつけることによる区画線の視認性の向上を検討し、維持管理が不要で時間の経過による違和感がない「グレー」の背景線を採用することとした。

現地にて施工済みのコンクリート舗装面の色彩を確認



舗装面（竣工時）の色の確認状況

し、より路面の近似色となる候補色を3つ選定し試験施工を行った。施工後、晴天時と雨天時に現地にて比較し、最も視認性に優れている背景色を採用した。

背景線の形状については視認性を重視し、車道中央線の両側150mmを帯状に施工するとともに破線部の間についても着色することとし、合計幅450mmの背景線とした。区画線は「溶融式」で施工しているが、背景線については数年で磨滅することを想定して「ペイント式」を採用した。

3. 事業の成果

道路管理者と交通管理者の目視による現地確認を行い、車道中央線の両側に背景線を入れることで区画線の視認性が向上したことを確認した。背景線の施工がない区間については、区画線の視認性に対するご意見が寄せられていたが、背景線を施工した区間は開通後、区画線の視認性についての意見は出ていない。

また、令和3年度の開通により現道からバイパスへ交通量が転換し、バイパスと並行している市道でも交通量、急ブレーキ回数が大幅に減少しており、地域の交通環境が改善されている。なお、新たな物流企業の進出が予定されており、地域の雇用創出を支援し、地域の活性化にもつながっている。



背景線の施工状況

4. おわりに

近年、社会資本の老朽化に対する維持管理費が増加しており、舗装の長寿命化やライフサイクルコストの低減に資するコンクリート舗装を採用していくに当たり、課題となる区画線の視認性向上の対策として参考になれば幸いである。

賛助会員 鹿島道路(株)、川田建設(株)、(株)建設技術研究所、(株)長大、(株)ビーエス三菱、復建調査設計(株)